

V. 特記事項

1. 地域医療に役立つ医療人の養成

本学は「命と向き合う心、知識、技を持った地域医療に貢献できる医療人の養成」を建学の精神として掲げ、社会の進展と人類の福祉に貢献すべく教育実践を通してこの具現化に努めてきた。特に地域医療に貢献できる人材の育成に努め、学問の教授を通して実践力を有する人材育成を行っている。

まず、地域との連携に関しては看護学部・リハビリテーション学部ともに「岐阜県の歴史と文化」の科目を開講し、時には、フィールドワークを行って、肌で岐阜の文化や歴史に触れる機会を作っている。

さらに、特徴として実践力を強化するアクティブ・ラーニングを重視する教育に力点を置いている。具体的には、学内に医療人育成センターとして医療現場を再現したシミュレーションセンターやサイエンスラボを開設している。いずれも東海地区で初めてのセンターとラボであり、体験型実践教育ができる学習施設である。医療従事者として医療を統合的にみることが出来る視点を養成することが出来る教育を特徴としている。レサシアンQCPR SCENARIO等シミュレーターを使用した病室型教育訓練方法により、実際の臨床現場・臨床場面を模擬的に再現した学習環境を提供している。学習ラボには7つのカメラが設置され、高性能シミュレーターへのかかわりの様子を撮影し、それによるデブリーフィングにより、症例に対する支援策を自ら考え行動し、対象に合った専門的技術を習得することが出来る。また、サイエンスラボはフィジカルサイエンスラボとADL(Activity of daily living)サイエンスラボの2部門をもち、それぞれの臨床現場での臨場感に近い形で、実践力を強化するアクティブ・ラーニングができる施設となっている。

また、本学独自の評価でも述べたように、地域との医療連携力を充実させるために地域密着型研究センターを設立し、活用している。研究センターは、①ネウボラの継続母子支援センター、②高齢者認知症予防センター、③多文化共生・多様性健康推進センター、④多職種連携実践センターの4つの研究センターであり、いずれも岐阜地区においては初めて開設されたもので、地域貢献の原動力ともなっている。さらに、看護学部では4年次に、「岐阜県の地域医療」を開講し、岐阜市内の歴史文化に精通した高齢者との交流、岐阜県赤十字血液センターにおける献血事業を通して地域活動と社会貢献に資する教育を行っている。学生が血液センターでの献血ボランティア活動に参加することや母子生活支援施設の子どものふれあい活動を行い市民との交流を体感している。

以上のように、本学では地域医療に役立つ医療人の養成教育を特徴としている。